

BPMツールを用いた開発手法改善の提案

リコーITソリューションズ株式会社

田端 聖也

Seiya.Tabata@jrits.ricoh.co.jp

開発における問題点

BPMツールを利用した開発においては、上流工程をいかに品質よく作りこむかが重要である
 ただ、実際の開発現場では上流工程での検討が十分にされないまま工程が進み下流工程でデータの不整合や業務処理の理解不足による手戻りが発生している

手法・ツールの適用による解決

各問題点に対して下記モデルで検証を実施
 ①上流工程にてデータ面での品質を向上させる
 ⇒データフローモデルの適用
 ②効率的に成果物を作成し十分な検討ができるようにする
 ⇒Referenceモデルの適用

アプローチ

Variantモデル



各業務フロー (Variant モデル) から Referenceモデルを構築。モデルを比較し Referenceモデルがある場合に工数削減にどれだ寄与できるかを検証

Referenceモデル



既存成果物(要件定義)

ユースケース記述

CRUD

画面イメージ

業務フロー

データフローモデル



既存の成果物を基にデータフローモデル作成
 作成したモデルを利用しウォークスルーを実施することでデータの不整合を検証

適用結果

プロセス	網羅率 (※1)				
	100%	99~75%	74~50%	~49%	平均
A	5/15	4/15	2/15	4/15	72%
B	3/15	2/15	6/15	4/15	53%

※1 網羅率: Variantモデルのアクティビティーのうち、Referenceモデルが網羅しているアクティビティーの割合

■Referenceモデル

高い割合でVariantモデルを網羅出来ていた
 ⇒Referenceモデルを基にして作成することで新たに業務プロセスを作成する場合に作成工数が減少出来る

■データフローモデルによる机上レビュー

データの整合性に関連する不具合が検出された
 ⇒上流工程での品質向上に寄与することが判明した

まとめと課題

■まとめ

・Referenceモデルがあることで各業務フローの作成の工数削減が見込める

・データフローモデルによりデータ面からの設計を補強することで上流工程品質向上に寄与できる

■課題

・より多くの業種に適用できるようにするためのナレッジの蓄積

・上流工程成果物の一つとしてデータフローの作成を実業務に適用するための計画